



重信川の堤防下を伏流した水が浸出して池を形成したもので、水生植物を積極的に取り入れた公園。この泉は形が瓢箪に似ているので瓢箪泉と呼んでいたのがひよこたん池になった。昔は水のきれいな泉として知られ、ティレギが繁茂し、近隣から採取に来ていた。



草田男の句碑「田を植える しずかな音に 出にけり」が、池のほとりに建っている。



遊具で遊べる親水公園に整備されている。



中川原素鷲神社



水害復興記念碑。台座の高さが昭和18年と昭和20年に発生した浸水水位。



耕地整理記念碑。書は秋山好古。



金峯山新龍院宗金寺の開基は実須和尚で、萬治元年(1658)という。本尊は延命地藏尊である。宝暦9年(1759)頃改築がおこなわれた。その後も歴代僧の在任により寺子屋を設けていた。

## 中川原のひよこたん池公園、素鷲神社、宗金寺



中川原の常夜灯  
文化12年建立



中川原から重信川対岸に松山中央  
公園の坊ちゃんスタジアムが見える



中川原の渡し跡の碑  
向うの橋は中川原橋



重信川の河川敷を自転車のみ(歩行者も可)が通れる専用道で、県道335号線



中川原から重信川の対岸の杜若泉と杜若浄水場  
以前は中川原に水利権があった



中川原公民館



秋祭りのノボリ(2番組、中西組、素鷲神社)

# 中川原周辺



金峰山新龍院宗金寺、真言宗豊山派に属し総本山は奈良県長谷寺、本尊は延命地藏尊である。



宗金寺の開基は実須和尚で、萬治元年(1658)という。宝暦9年(1759)頃改築がおこなわれ、昭和3年(1928)再建、また今回平成27年(2015)に本堂・庫裡・山門を含め全面再建された。



宗金寺は明治初年ごろ義旭和尚が寺子屋を設けていた。明治5年(1872)小学令によって寺子屋が開新小学校となった。



寺の主な行事としては、仁王経を講読して災難を払う仁王会、閏年毎に行う大施餓鬼会がある。



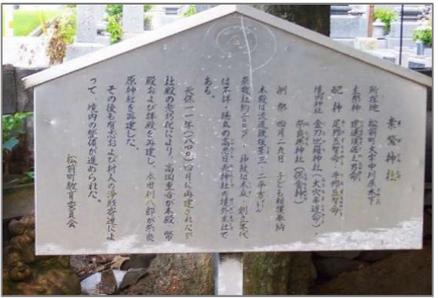
# 宗金寺(平成27年1月)



中川原の素鷲神社。主祭神は建速須佐之男命、配神は足那豆智命・手那豆智命。徳丸の高忍日売神社の境外末社。



境内社に金刀比羅神社・奈良原神社が祀られている。創立年月未詳。



例祭は4月29日。神紋が木瓜であるところからお祭りにはキュウリを食べないとする風習があった。



天保11年(1840)に再建されたが、社殿の老朽化により昭和33年ごろ再建した。



境内には水害復興記念碑(台座の高さが昭和18年と昭和20年に発生した洪水水位)、および耕地整理記念碑(書は秋山好古)がある。

# 中川原の素鷲神社



内川のかきつばた泉(松山市井門町)



かきつばた泉傍の祠



左奥は中央高校



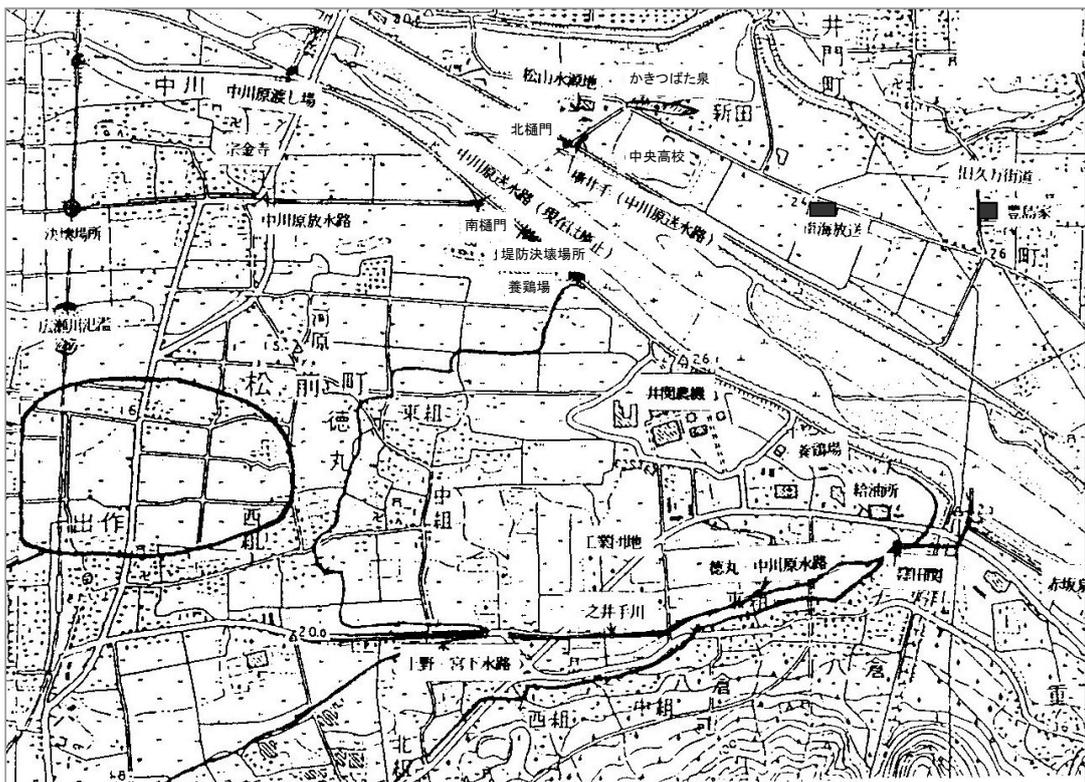
広大な敷地にかきつばた浄水場



中川原の対岸松山市井門町(お茶屋水源地、高速道路橋梁、外環状線の道路工事)



中川原から重信川・中川原橋を望む(中央公園、自転車専用道や中川原の渡し跡がある)



横井手水路図

杜若泉と横井手(中川原の用水路)  
(昭和27年に用水権を放棄)